

2018 なよろ経済ミニ情報



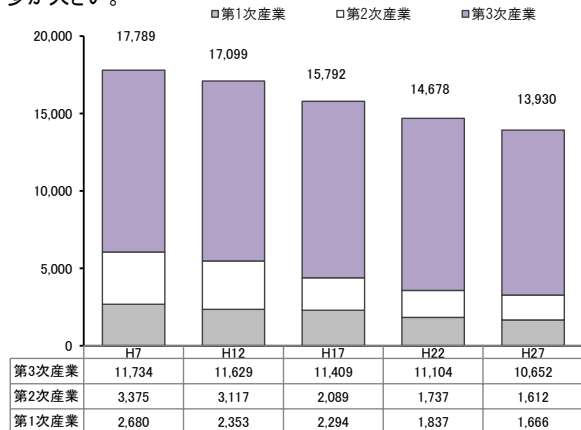
名寄商工会議所

産業構成

①産業別就業者数の推移

平成7年以降、名寄市全体の産業就業者数は減少傾向を続けており、産業全体で平成7年に比べ平成27年では21.7%減少している。

産業別で平成7年と平成22年を比較すると、第1次産業では37.8%の減少、第2次産業では52.2%の減少、第3次産業では9.2%の減少となり、特に第2次産業である建設業・製造業の減少が大きい。



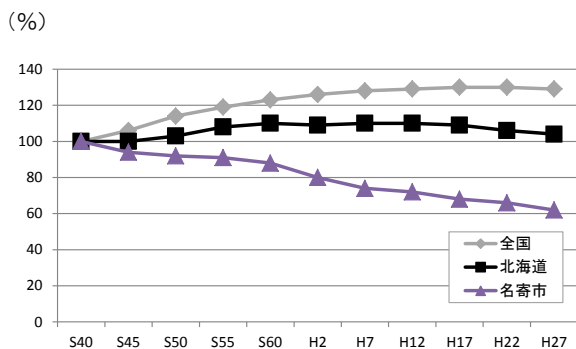
(資料①②～国勢調査)
※データは全て新名寄市(旧名寄市と旧風連町合算)の数値

人口

①名寄市・全国・全道の人口推移比較

名寄市の人口推移を、昭和40年を100%とし、全国・全道の推移と比較すると、全国では年々増加し、北海道では昭和60年まで増加し、その後はほぼ横ばいで推移する中、名寄市においては昭和55までは大きな変化は見られなかったが、昭和60年以降減少し続け、平成27年では昭和40年より約38%減少の29,048人になった。

また、住民基本台帳では、平成18年に旧名寄市と旧風連町の合併により、人口が31,515人となるが、平成19年31,309人、平成21年30,897人、平成23年30,171人、平成25年29,556人と3万人を割り、平成29年11月末日27,957人と減少傾向は続いている。



(資料～平成27年度国勢調査)
※データは全て新名寄市(旧名寄市と旧風連町合算)の数値

②平成27年産業別就業者状況

名寄市の就業状況を産業別に、全国・全道と構成比で見ると、特に第2次産業が全国に比べ低く、製造業では5.0%と全国から見ると約3分の1程度である。

また、第3次産業では、全国・全道より高いが、公務割合が15.3%と全国の3.6%、全道の5.5%を大きく上回り、全国から見ると約4倍である。

就業実数(人)		名寄市	北海道	全国
就業者数		13,930	2,300,158	55,757,100
第1次産業		1,666	170,336	2,221,699
第2次産業		1,612	411,569	13,920,834
	うち建設業	907	205,224	4,341,388
	うち製造業	691	204,251	9,557,215
第3次産業		10,652	1,718,253	39,614,567
	うち卸売・小売業	2,048	378,424	9,001,414
	うち飲食・宿泊業	791	144,990	3,249,190
	うち医療・福祉	2,028	326,058	7,023,950
	うち公務	2,128	127,202	2,025,988

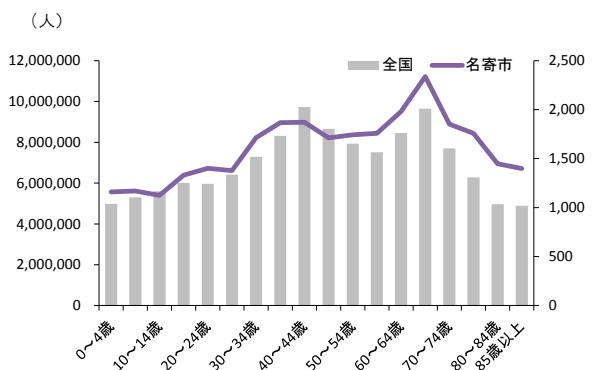
同上構成比(%)		名寄市	北海道	全国
就業者数		100.0	100.0	100.0
第1次産業		12.0	7.4	4.0
第2次産業		11.6	17.9	25.0
	うち建設業	6.5	8.9	7.8
	うち製造業	5.0	8.9	17.1
第3次産業		76.4	74.7	71.0
	うち卸売・小売業	14.7	16.5	16.1
	うち飲食・宿泊業	5.7	6.3	5.8
	うち医療・福祉	14.6	14.2	12.6
	うち公務	15.3	5.5	3.6

②名寄市・全国の年齢別人口構成

名寄市の年齢別人口構成を全国と比べると、ほぼ同じ傾向である。団塊の世代と言われる65～69歳の人口が多く、若手の年齢層である20～29歳が減少している。

名寄市の3階層別で見ると、生産年齢人口(15～64歳)が全体の59.2%、年少人口(0～14歳)12.4%、老年人口(65歳以上)28.4%である。年少人口率が低い中、生産年齢と老年人口率を合わせると87.6%と、総人口の減少に併せて更なる高齢化が進むことが予想される。

今後は、名寄市及び全国においても、少子高齢化対策が今以上に重要な課題になると考えられる。

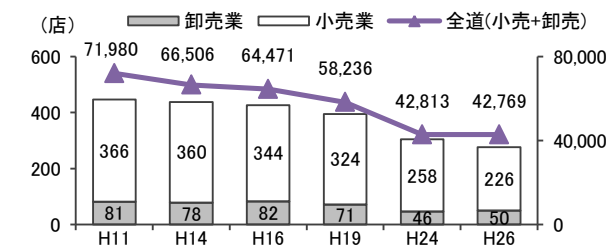


(資料～平成27年度国勢調査)

商業

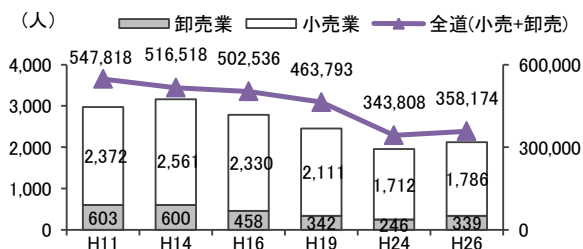
①商店数の推移

卸売・小売業の事業所数は減少しており、全道の推移と同じ傾向である。平成16年から平成26年にかけては、卸売業で32件、小売業で118件が減少している。



②従業員数の推移

平成14年大型店出店により増加したものと考えられるが、平成16年から平成26年までの10年間で卸売業・小売業の従業員数は4分の1減少している。



納税状況(国税)

①所得税の推移 (データは国税庁統計情報より)

平成21年以降上昇傾向にあり、平成23年は年少扶養控除廃止により納税額があがった。平成27年は大きな税制改正もなかったが急激に上昇している。

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
名寄税務署	628	672	770	735	685	674	922
全道	58,426	60,019	63,278	64,182	74,997	72,103	83,343

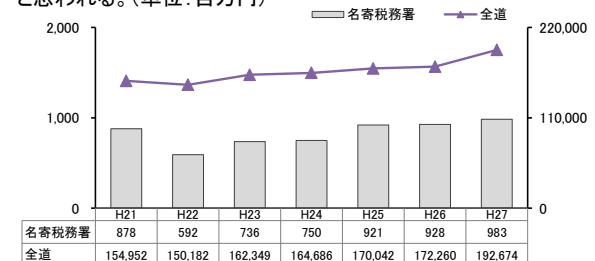
②源泉所得税の推移

平成20年以降全道ともに減少傾向は続いている。平成23年以降は年少扶養控除が廃止したことも増加した要因と考えられる。

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
名寄税務署	2,234	2,237	2,382	2,325	2,352	2,488	2,478
全道	279,740	275,282	285,968	283,735	298,340	321,992	331,980

③法人税の推移

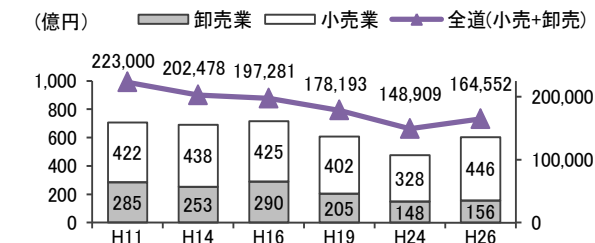
名寄市では平成22年は前年3割以上も減少したが、平成23年以降名寄市、全道とも増加しており、公共事業の増加等も要因と思われる。(単位:百万円)



③年間商品販売額の推移

全道を見ると小売業と卸売業の合計では年々減少傾向となっている。名寄市においても平成16年以降は全道と同じように販売額は年々減少傾向にあり、平成24年は476億円と平成16年より239億円減少している。

平成26年を見ると全道、名寄市ともに前回の販売額より増加している。これは平成26年4月から税制改正により消費税率が5%から8%と3%の増税になったことも年間の販売額増加の要因と考えられる。

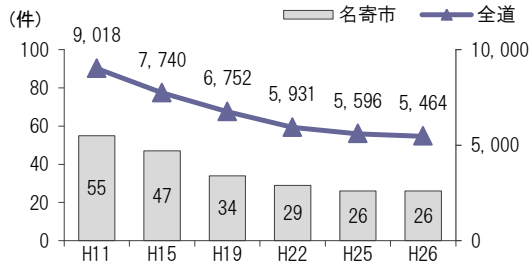


(資料①②③～経済産業省商業統計調査)
※平成24年・26年確報値になります。
※データは全て新名寄市(旧名寄市と旧風連町合算)の数値

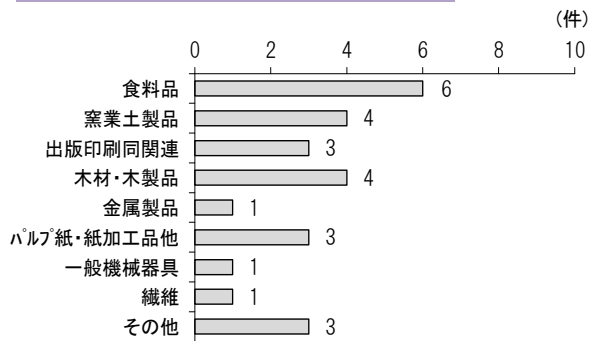
工業

①工業数の推移

全道の推移と同じ減少傾向にあり、平成15年から10年間で21件(44.7%減:北海道29.4%減)と大きく減少している。



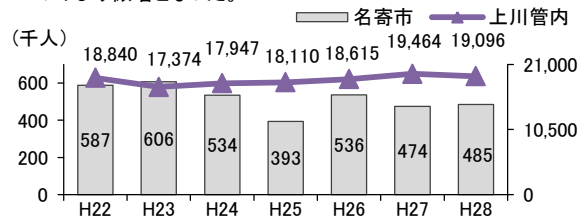
②工業数の産業別構成(平成26年)



観光

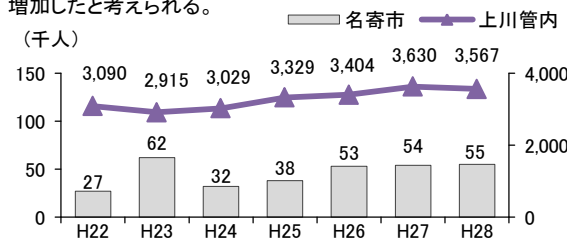
①観光入込数の推移

平成21年に道の駅と道立サンピラーパークのオープンで増加につながったが、平成25年は天候不順により減少、また温泉施設が改装の為休館したこと等が要因と考えられる。H26年度は各種スポーツイベントが多かった為増加、平成28年度は冬季イベントより微増となった。



②宿泊客延数の推移

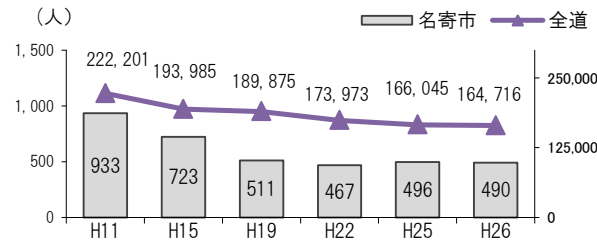
平成23年は名寄市で撮影された映画星守る犬の等により宿泊客数が増加、平成26年度以降はホテルの新設もあり宿泊客数が増加したと考えられる。



(資料①②～上川支庁管内観光入込客数調査結果)

③従業員数の推移

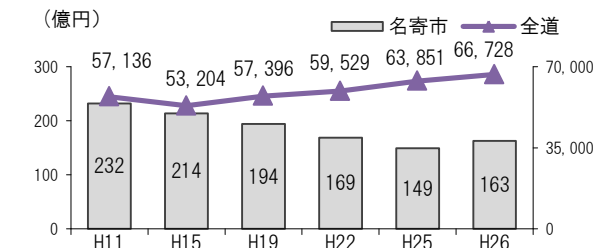
全道の推移は緩やかな減少であるが、名寄市においては平成15年から10年間で31%も減少している。



④製造品出荷額の推移

全道を見ると増加傾向にあるが、名寄市では工業数・従業員数と同様に年々減少している。

平成15年から10年の出荷額は全道で20%の増加に対し、名寄市では30.4%の減少となっている。平成26年に増えているのは消費税増税の影響と考えられる。

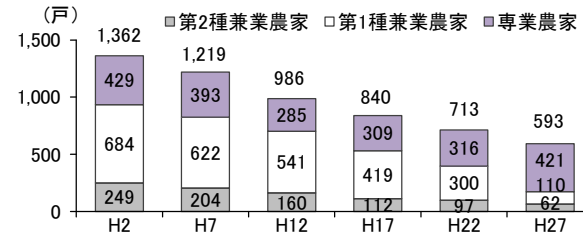


(資料①②③④～平成26年度工業統計調査確報[北海道])
※データは全て新名寄市(旧名寄市と旧風連町合算)の数値

農業

①農家戸数の推移

担い手の減少や高齢化が進み、農家戸数が平成2年から平成27年の間に全体で769戸が減少している。特に第1種兼業農家が574戸と減少が大きい。



②経営土地種類別面積

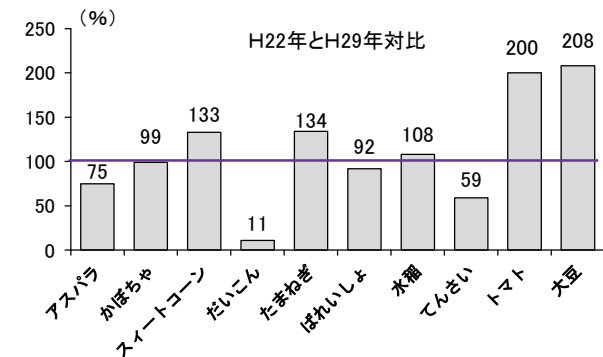
区分		年次	H17	H22	H27
実農家(実経営体)数			879	747	625
耕地	田	面積	5,606.53	5,516	5,407.99
		農家数	745	605	509
	畑	面積	4,211.85	4,689	4,577.9
		農家数	808	642	369
樹園	面積	10.16	8	8.85	
	農家数	10	8	8	
一戸当り耕地			11.2	13.7	15.97

(単位:戸・経営体, ha)

(資料①②～農林業センサス)
※データは全て新名寄市(旧名寄市と旧風連町合算)の数値

③名寄市の主な農作物の作付面積

主な農産物	作付面積(ha)	
	H22	H29
アスパラ	176	132
かぼちゃ	565	560
スイートコーン	255	340
だいこん	9	1
たまねぎ	47	63
ばれいしょ	211	195
水稻	3,326	3,598
てんさい	187	111
トマト	4	8
大豆	311	648



(資料③～名寄市農務課調べ)

※グラフはH22年を100%として比較。

住みよさランキング 2017年北海道 3位

住みよさランキングとは

東洋経済新報社(本社:東京)が1992年から独自に算出しているもので、5つの観点に分類し、ランク付けしたものです。名寄市は昨年の全国145位から191位と順位を落としましたが北海道では3位と昨年と同じ順位でした。北海道1位は昨年に引き続き北広島市になりました。

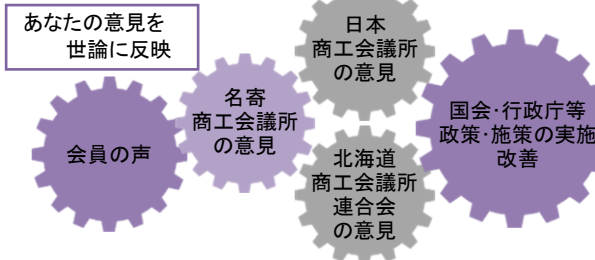
2017年名寄市の項目別全国ランキング

- ベスト 5** (全国 814 市区)
- 「人口1万人当たり交通事故発生件数」・・・3位
※1万人当たりの交通事故件数少ない。
 - 「自市内従業員割合」・・・8位
※市内に住み、市内の企業に勤めている。
 - 「1人当たりの小売業年間販売額」・・・14位
※1人当たりの買物の金額が高い
 - 「完全失業率(若年層)」・・・15位
※15～29歳の失業者が少ない。
 - 「若年層有配偶率・女」・・・20位
※25～39歳女性の配偶率が高い。
- ワースト 5** (全国 813 市区)
- 「人口1000人当たりの職員数」・・・810位
※行政・教育・警察等地方公務員の数が多。
 - 「就業人口構成(第2次産業)」・・・804位
※鉱業・建設業・製造業で働く人が少ない。
 - 「社会増加率」・・・802位
※転入より転出が多い。
 - 「人口密度」・・・784位
※(指数は53.37人/Km²)人が少ない。
 - 「人口1人当たり地方債残高」・・・782位
※1人当たりの地方債が89.49万円と高い。

商工会議所の事業

商工会議所とは

商工会議所は【商工会議所法】に基づいて設立された特殊法人で、業種・業態・規模の大小を問わず地域すべての商工業者の利益をはかるとともに、広く社会福祉の増進に資することを目的に活動する公共的性格をもつ、地域唯一の総合経済団体です。



商工会議所の主な事業

- 地域発展の為に国・道・市への意見・要望活動
 - 各種経済調査、企業経営に関する調査・統計
 - 簿記、販売士などの能力検定試験
 - 各種共済制度・福利厚生
 - 金融・税務・経営・労働・取引等の相談指導
 - 地域振興事業
- (名寄地区全市連合大売出し、各種セミナー、青年部活動)
- ご当地検定「なよけん」 <http://cci.nayoro.biz/kentei/>

あれ? もしかして
ワタシタチはなよること
ぜんぜん知らないんじゃないか...?

名寄ご当地検定
なよけん

経営に関する相談指導

中小企業相談所では、経営指導員等を配置し、窓口での相談の他、企業に向いての巡回相談も行っています。

相談無料! お気軽にご相談を

- 事業資金を借りたい**
- ・国・道・市などの制度融資、資金繰りのたて方についてなど
- 記帳の仕方がわからない**
- ・複式簿記による記帳の仕方、決算書類の作成についてなど
- 新規に開業したい**
- ・創業への各種手続き、国・道・市の支援メニューについてなど
- 従業員を雇い入れたけど**
- ・労働保険への加入手続き、年度更新手続きについてなど
- 確定申告決算書がわからない**
- ・青色申告手続きや申告書の作成方法、年末調整についてなど
- その他**
- ・事業計画の立て方、経営戦略について、などなど

2018 なよろ経済ミニ情報

発行: 名寄商工会議所
096-0001 名寄市東1条南7丁目
TEL 01654-3-3155 FAX 01654-2-0571
URL <http://cci.nayoro.biz/>
E-mail nayocci@hokkai.or.jp

